

感染症分野

研究領域

「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2024年	研究期間	5年間	
研究課題名	クラウド型ゲノム解析基盤の確立と新規コレラ治療法に向けた研究開発		貢献 する 主な SDGs	
研究代表機関	大阪大学			
相手国	インド共和国	主要相手国 研究機関	国立コレラ腸管感染症研究所	
研究課題の概要				
コレラは症状の激しい感染性下痢症であり、WHOは2030年までの制圧を目指している。インドのベンガル地方はコレラの故郷とも呼ばれる主要流行地として知られ、この地域でのコレラ封じ込めが世界的流行の予防となる。本研究課題ではインドで流行するコレラ菌の病原性や薬剤耐性を、クラウドコンピューティングを活用したゲノム解析によって日印で調査し現状を把握する。またコレラ流行の要因として無症状感染者の存在も指摘されており、腸内細菌叢解析による探索や患者への感染経路の追跡を行う。収集したコレラ菌流行株のゲノム情報から病原因子や腸管付着因子を調べ、それらを阻害する新規機序の薬剤開発へ繋げることを目標とする。				